

昭和萬古とその系譜

— 明治から昭和まで —



色絵唐子絵壺

2011年

1月2日(日) ~ 2月20日(日) 会期中無休

関連イベント 1月16日(日) 14時 ~ 当館学芸員による解説

開館時間 9時30分 ~ 17時30分(入館は17時まで)

入館料 一般 1000円(4枚セット券 3000円) / 大学生 800円 / 高校生 500円 / 中学生以下無料

後援 中日新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送、伊勢新聞社、読売新聞社、(株)シー・ティー・ワイ、ケーブルネット鈴鹿

paramitamuseum

財団法人岡田文化財団

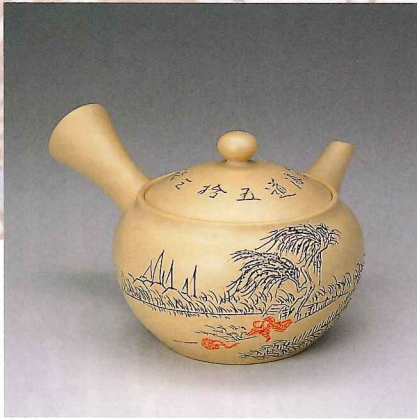
〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077

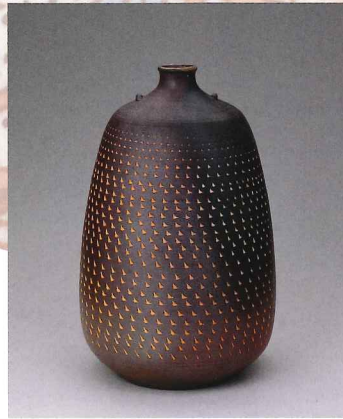
http://www.paramitamuseum.com E-mail=office@paramitamuseum.com

昭和萬古とその系譜

— 明治から昭和まで —



東海道五十三次四日市絵急須



窯変飛飽象嵌壺



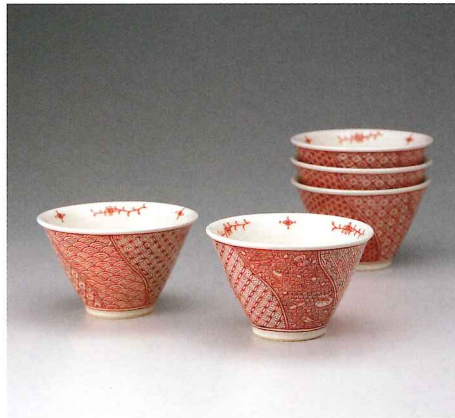
金彩電貼付文急須

パラミタミュージアムでは2009年度、昭和萬古の散逸を危惧し四日市萬古商業組合のご協力を得て、大規模な蒐集活動を行いました。それにより新収蔵された昭和萬古は約350点にのぼります。その中でも特に製作年代、作者等が明確に分かる昭和萬古は、次世代に伝えるべき大変価値のある歴史的資料といえます。江戸時代中期に始まった萬古焼ですが、四日市では文政12年(1829)東阿倉川において、同所唯福寺の住職田端教正と信楽出身の陶工上島庄助が開窯し、茶器・食器、台所用品を中心に製作が始まりました。その後明治に入り、四日市萬古焼の父といわれる山中忠左衛門が萬古焼の大量生産に成功し、土瓶などが海外に輸出されるようにもなりました。海外への輸出は第二次世界大戦により一時途絶え、萬古業界も空襲による被害を受けましたが、戦後すぐに復興するとともに国内外問わず販路を広げ続け、四日市萬古は昭和54年(1979)、国の伝統的工芸品に指定されました。

本展では、新収蔵となった昭和萬古に代表される見事な花鳥の彫文が施された紫泥急須、色彩豊かな人物や花鳥画が描かれた壺や大皿などを中心に、以前から当館が所蔵する明治萬古等の逸品をそれらに加え、明治から昭和に至る四日市萬古の変遷をたどるとともに、各作者についての解説も添えて展示いたします。



高台付亀甲すかし香炉



赤絵向付



青海波菓子皿



青釉鉢 東京国立近代美術館蔵 撮影:上野則宏

次回展覧会予告

ルーシー・リー展

2011年
2月26日(土)～4月17日(日)

20世紀を代表する陶芸家、ルーシー・リー。「窯を開けるときはいつも驚きの連続」の言葉に象徴されるように、彼女の生涯は、つねに瑞々しい驚きに満ちた陶芸制作に捧げられたものでした。本展では、ルーシー・リーの創作の軌跡を国内外の選りすぐった約200点でたどります。



交通機関

- お車をご利用の場合＝東名阪四日市I.C.で降りて国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。無料駐車場あり(普通車100台、大型バス駐車可)
- 電車をご利用の場合＝近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分「大羽根園駅」下車、西へ300m。全館バリアフリー、車椅子常備



paramitamuseum 財団法人岡田文化財団

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6 Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077
http://www.paramitamuseum.com E-mail=office@paramitamuseum.com